

歯と歯グキのためのブラッシング&マッサージ

●**バス法ブラッシングで“歯垢”を除去**
ソフトな毛先の歯ブラシが、毎分4,000回転のスピードで高速微振動。歯グキのポケットにたまった歯垢を取り除きます。



●**マッサージで、歯グキをひきしめ血行促進**
シリコンラバーブラシに伝わる高速微振動で、歯グキをやさしくマッサージ。歯グキのポケットをひきしめて、歯垢をたまりにくくします。



歯と歯グキにやさしいシュシュのアイデア

■歯ブラシ



- 3列植毛により、歯の表面がきれいに磨けます。
- 振動を歯グキに確実に伝達するため、毛足は10mmの短かめ。

- 植毛部の長さは、お口の中で動かしやすい20mmサイズです。
- 歯と歯グキを痛めない毛先を丸めたソフトな素材のブラシです。

- 偏心カムパイプレーション方式で、バス磨きに適した細かい振動をつくります。

- パイプレーションは、手にやさしい4,000回転。
- 手にピッタリの細めグリップ(径22mm)。



■歯グキ用シリコンラバーブラシ



- 歯グキと同じ硬さですので、弱った歯グキも傷つけることなくマッサージできます。

- 歯グキに「そつと」当てるだけでOK。無理にゴシゴシする必要はありません。
- 素材は人体に無害なシリコンゴムを使用。



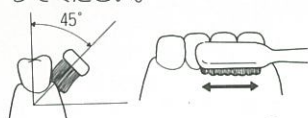
- 各コーナーをなめらかな曲線でまとめ、お口の中での動きはスムーズ。

- まあい突起が、振動を効果的に伝達。テコボコの多い歯グキ表面にもフィットします。

上手なみがき方

ブラッシング (歯ブラシ使用)

1 ブラシの毛先を歯と歯グキの境目に45度の角度で当て、左右に動かしてください。

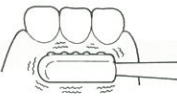


2 歯ブラシを2~3歯ずつに当てて磨くようにしてください。

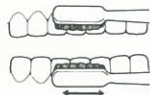


マッサージ (ラバーブラシ使用)

1 ラバーブラシを歯グキの表面にそつと当て、電動による振動でマッサージしてください。(手でゴシゴシする必要はありません。)



3 上の歯と下の歯は別々に磨いてください。



4 歯の裏側、かみ合わせ面もていねいに磨いてください。



2 上下の歯グキ、裏表とも、まんべんなくマッサージしてください。



お手入れのしかた

本体、ハードケースの汚れは、中性洗剤や水で湿らせた布で落し、乾いた布でふきとってください。ペンジン、シンナーなど揮発性の薬品や熱湯は、プラスチックをいためますのでご使用にならないでください。



スペアブラシについて

スペアブラシのお求めは、オムロン電動歯ブラシお買い上げの販売店でお求めください。スペア歯ブラシ(4本入)¥500 シリコンラバーブラシ(2本入)¥600

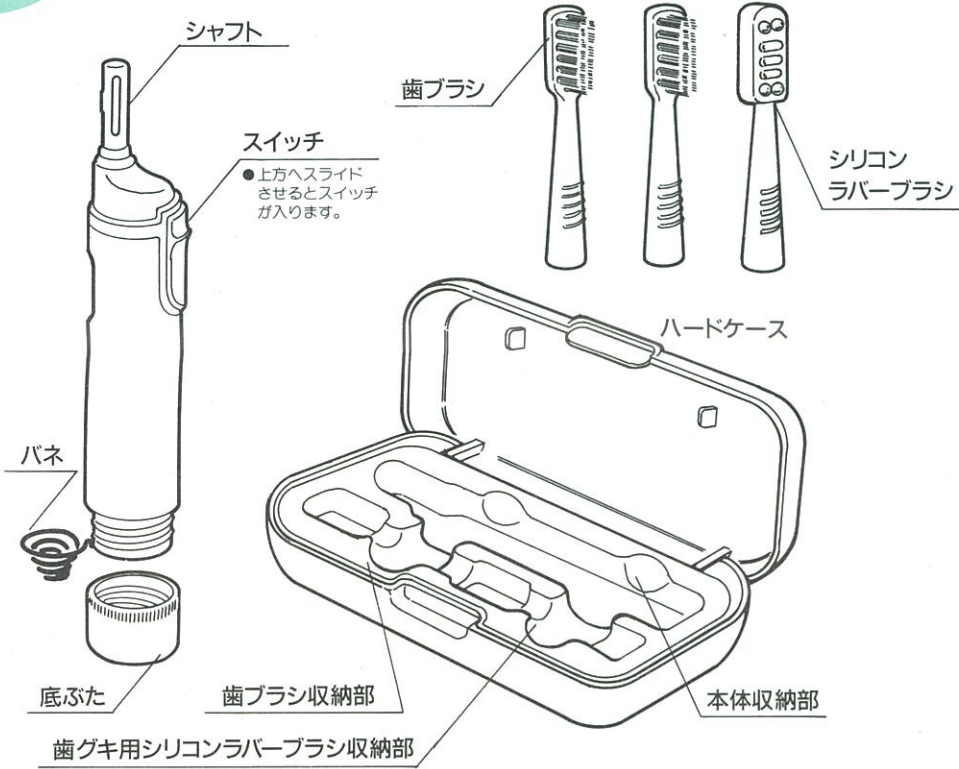
仕様

型式/HT-B03
電源/DC1.5V(単3形乾電池1コ)
振動数/4,000回(分)
外形寸法/φ22×187mm(歯ブラシを含む)
重量/55g(乾電池別)
付属品/歯ブラシ(2)・ハードケース・シリコンラバーブラシ(1)

アフターサービスについて

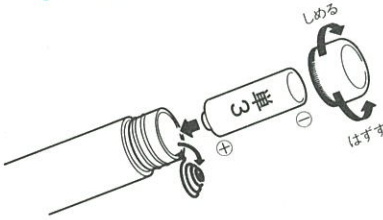
不審な点、故障の場合は、内部機構をさわらずにお買い上げ販売店にご持参のうえ、ご相談ください。

各部のなまえ



乾電池の入れ方

1 底ぶたを左に回してはずし、パネを出して乾電池の⊕⊖に注意して入れる。



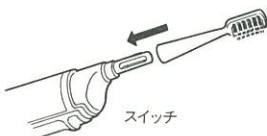
2 底ぶたを右に回して最後まで確実にしめてください。

底ぶたが確実にしまっていない場合は、水が内部に入り故障の原因となります。

- ★乾電池をお取替えのときは、ボディの水気をよく拭き取って、水滴が中に入らないようご注意ください。
- ★乾電池は別売です。単3形マンガン乾電池をご使用の場合、1回3分お使いになるとして約20回使えます。
- ★1カ月以上使わないときは、乾電池を取出しておいてください。

歯ブラシとシリコンラバーブラシの使い方

1 歯ブラシ又はシリコンラバーブラシを下図のように、シャフトに差し込んでください。
●本体のスイッチ側に歯ブラシ毛先又はシリコンラバーブラシの突起面を向けて差し込んでください。



2 「歯みがき」をつけ、必ず歯ブラシを口の中に入れてからスイッチを入れてください。
●使用するときには下図の点線部より下を持って磨いてください。



3 ご使用后、歯ブラシ又はシリコンラバーブラシと本体を洗ってください。
●水分をよく拭き取ってから、ハードケースへ収納してください。



特にご注意いただきたいこと

●お子様の使用について。



正しい使い方を教えてあげてください。

●水中に放置しないでください。



故障の原因になります。

●水洗いは水道水かぬるま湯をご使用ください。



海水、熱湯は使わないでください。

●本体に強い衝撃を与えないでください。

故障の原因となります。



●発熱体の近くに放置しないでください。

故障の原因となります。